



2023年4月13日

各位

会社名 株式会社トリプルアイズ
代表者名 代表取締役 山田 雄一郎
(コード番号: 5026 東証グロース)
問い合わせ先 取締役 CFO 加藤 慶
(TEL. 03-3526-2201)

業績予想の修正、減損損失、ソフトウェア評価損の計上及び繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年10月13日に公表しました2023年8月期の業績予想を下記のとおり修正いたします。また、減損損失、ソフトウェア評価損の計上及び繰延税金資産の取り崩しについて、あわせてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2023年8月期通期連結業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (2022年10月13日発表)	2,601	26	28	22	3.28
今回修正予想 (B)	2,322	△211	△209	△583	△84.02
増減額 (B-A)	△279	△238	△238	△606	
増減率 (%)	△10.7	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2022年8月期)	2,424	133	115	112	17.47

2. 業績予想修正の理由

当社グループの「AIソリューション事業」セグメントにおいて、新型コロナウイルス感染症対策として提供してきた自動検温装置と画像認識技術を結合したサービスに関して、2023年1月27日に政府により発表された新型コロナウイルス感染症に対する感染症法上の位置づけの変更(2類感染症から5類感染症への変更)等に伴い、需要の低下に影響を及ぼしております。また、当社グループは、顔認証AIが世の

中に欠かせないテクノロジーとして社会に広く実装されるよう、大手企業含むパートナーとも協働し取り組んでおりますが、当該位置づけの変更に伴い、人々の生活や行動を変えるシステム実装には当初の想定以上に丁寧な検討を行い、時間をかけることが必要であり、あわせて、これらに関するシステム実装の規模拡大や収益化も短期の見込み数値として織り込むべきではないと判断いたしました。具体的には、当社グループの当初の想定では、2023年8月期中に、新型コロナウイルス感染症への対策の一環で、マスクを着用した状態でも利用可能な精度を持つ顔認証AIが搭載された製品またはサービスが、大手企業含め広く使われるようになり、当社グループの売上高も増加する前提でございました。また、アルコール検知器と顔認証AIの連携サービスにつきましても、2022年10月に予定されていた改正道路交通法施行が延期し、その再施行を見据えた営業活動を推進してまいりました。一方で、当該位置づけの変更に伴い、当社グループの顧客において、今後の新型コロナウイルス感染症への個人の対応が多様となる中で、顔認証AIが搭載された製品またはサービスの導入をペンディングまたは見送るケースが発生しております。また、複数の顧客へヒアリングを行った結果、再度導入検討を行う際は、単なる新型コロナウイルス感染症対策のための非接触を目的としたものではなく、利便性や効率性の向上等を目的としたケースが多く、顧客での設備投資予算や、当社でのカスタマイズを行う時間の確保等を踏まえると、当社グループの業績へ織り込むタイミングはこの半年～1年等の短期的なスパンではなく、2年程度かけた中長期的な時間軸であると判断したため、想定を変更いたしました。

その結果、売上高については2,322百万円(AIソリューション事業内、SI部門売上高については1,770百万円から1,717百万円、AIZE部門売上高については781百万円から556百万円)に予想を修正いたします。

売上高の見直しの他、AIZE部門において、売上高の減少に伴い原価のうち固定費が占める割合が高まることで、売上総利益率が低下(42.3%→32.9%)することによる売上総利益の減少、及びこれまで資産計上していたソフトウェアの開発に関する費用を、研究開発費として販売費及び一般管理費として計上すること等による費用の増加を受け、営業利益については、営業損失211百万円に、経常利益については経常損失209百万円に、それぞれ予想を修正いたします。

また、当該事業に供用する固定資産(主にソフトウェア)の減損損失324,873千円、ソフトウェア評価損26,255千円を計上し、繰延税金資産を17,739千円の取り崩しを行うことから、親会社株主に帰属する当期純利益の予想については親会社株主に帰属する当期純損失583百万円に修正いたします。

3. 減損損失、ソフトウェア評価損の計上及び繰延税金資産の取り崩しについて

前項に記載の状況を踏まえ、当該事業に供用する固定資産(主にソフトウェア)について、将来の回収可能性を検討した結果、2023年8月期第2四半期決算において、減損損失324,873千円を、また見込販売収益を変更したことにより、2023年8月期第2四半期決算において、ソフトウェア評価損26,255千円をそれぞれ計上いたしました。

合わせて、当社グループの今後の業績見通しを総合的に勘案し、繰延税金資産の回収可能性について検討した結果、当該資産を取り崩し、法人税等調整額として17,739千円を計上いたしました。

これらについては、本日発表の2023年8月期第2四半期決算に反映しております。

なお、上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報や予測等に基づくものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

以 上